

OTC類似薬保険外しに関する 影響アンケート（最終報告）

OTC類似薬
保険除外



01 アンケート概要

1. 調査期間・方法

- 2025年9月22日～11月18日
- Googleフォームを使用
- 子育て世代など現役世代を中心に拡散。がん・難病など重篤な疾患を抱え高額療養費や公費負担医療などの制度利用者からの回答が多く寄せられた
- 難病患者家族の大藤が呼びかけた。全国保険医団体連合会の機関紙に掲載し、受診した患者らに協力いただいた。新日本婦人の会も拡散に協力した

2. 回答数

- 有効回答数 12,301件（うち寄せられた具体事例 7,295件）
- 年代構成

19歳以下：159名(1.3%)	20代：860名(7.0%)	30代：2,308名(18.8%)
40代：2,544名(20.7%)	50代：2,634名(21.4%)	60代：2,095名(17.0%)
70代：1,485名(12.1%)	80歳以上：216名(1.8%)	

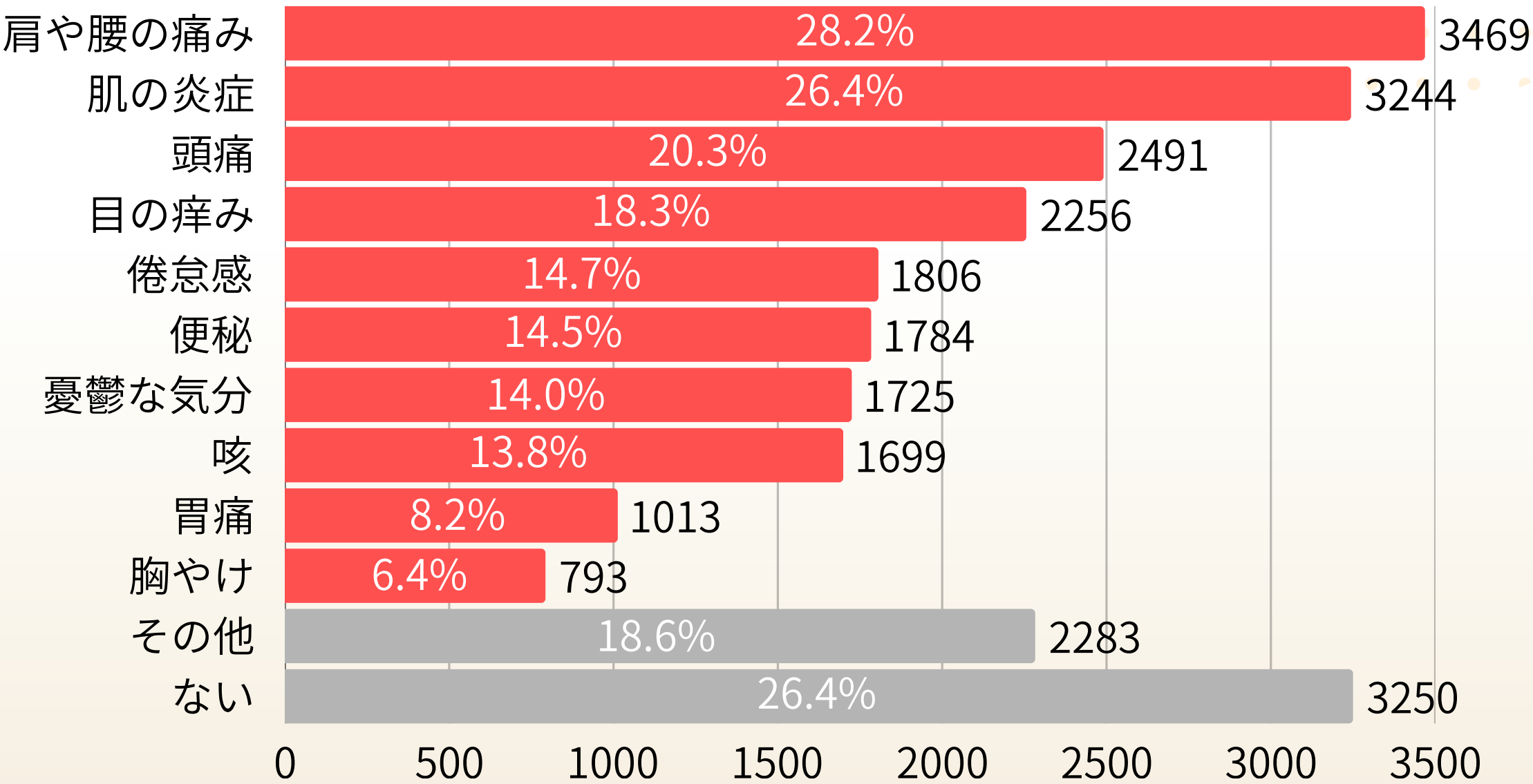
02 集計結果

現在、自覚症状はありますか？

- 約74%が「自覚症状」があると回答した
- 自覚症状で最も多かったのは「肩や腰の痛み」で、次に「肌の炎症」「頭痛」「目の痒み」「倦怠感」「便秘」「憂鬱な気分」「咳」「胃痛」「胸やけ」と続いた
- 回答者の4分の1は自覚症状がなかった

自覚症状（複数回答可）

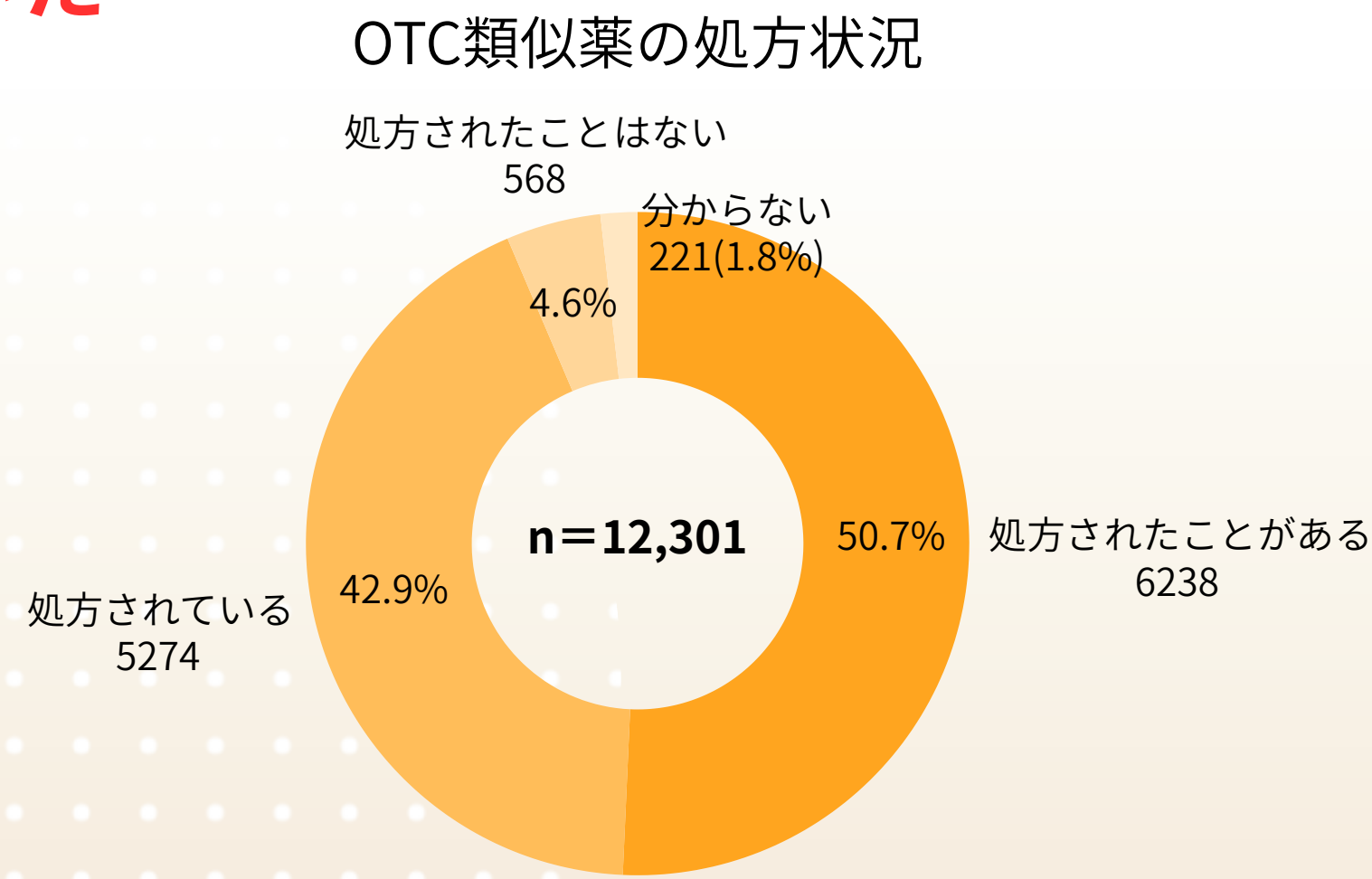
n=12,301



02 集計結果

OTC類似薬を処方されていますか？

- 医療用医薬品（OTC類似薬）の名称を挙げて処方状況を聞いたところ、**半数超が過去に処方されており、4割は現在も処方されていた**



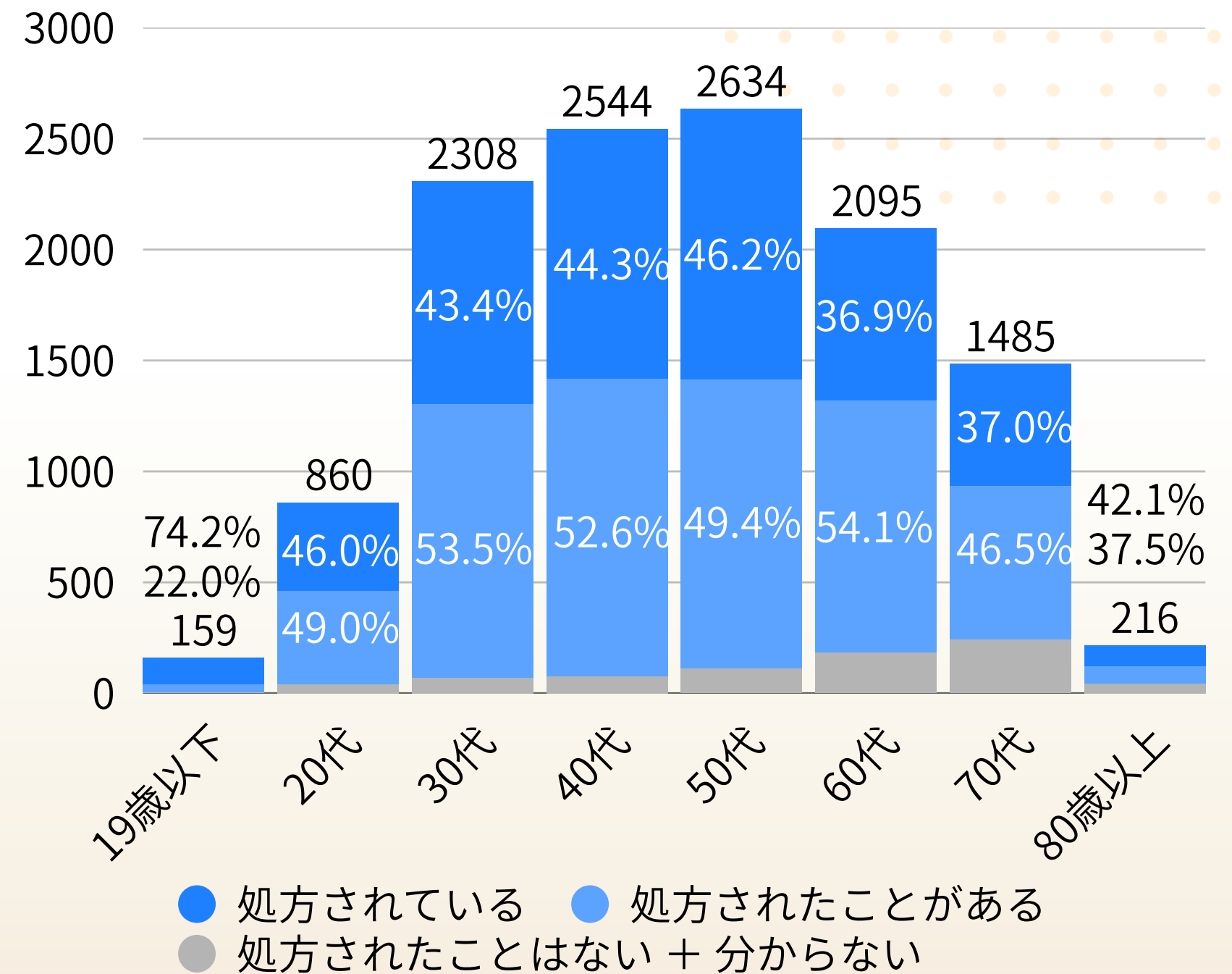
この薬、保険から外れるかも	
<p>アレルギー (花粉症、じんましん、アトピー等)</p>  <p>アレジオン錠 クラリチン錠 アレグラ錠 タリオン錠 フルナーゼ点鼻薬</p>	<p>かゆみ・湿疹・皮膚炎・保湿</p>  <p>ヒルドイドクリーム リドメックスコーワ軟膏 リンデロンVG軟膏</p>
<p>解熱・消炎・鎮痛・湿布</p>  <p>ロキソニン錠 イブプロフェン フェルビナクテープ カロナール</p>	<p>咳・痰・呼吸器</p>  <p>ムコダイン錠 メジコン</p>
<p>慢性胃炎・胃潰瘍</p>  <p>ガナトン錠 ガスターD錠</p>	<p>感染症</p>  <p>オキナゾール錠錠 ゾビラックス軟膏 ラミシールクリーム</p>
<p>便秘</p>  <p>マグミット錠</p>	<p>目のかゆみ・充血</p>  <p>リザベン点眼液</p>

02 集計結果

OTC類似薬を処方されていますか？

- 年代ごとの処方状況を見ると、19歳以下から60代の年代で9割超が「処方されている」または「処方されたことがある」と回答した。**現役世代であっても医療用医薬品（OTC類似薬）を使用している**ことがわかる
- 19歳以下では、約74%が現在も処方されていると回答した

年代ごとの処方状況

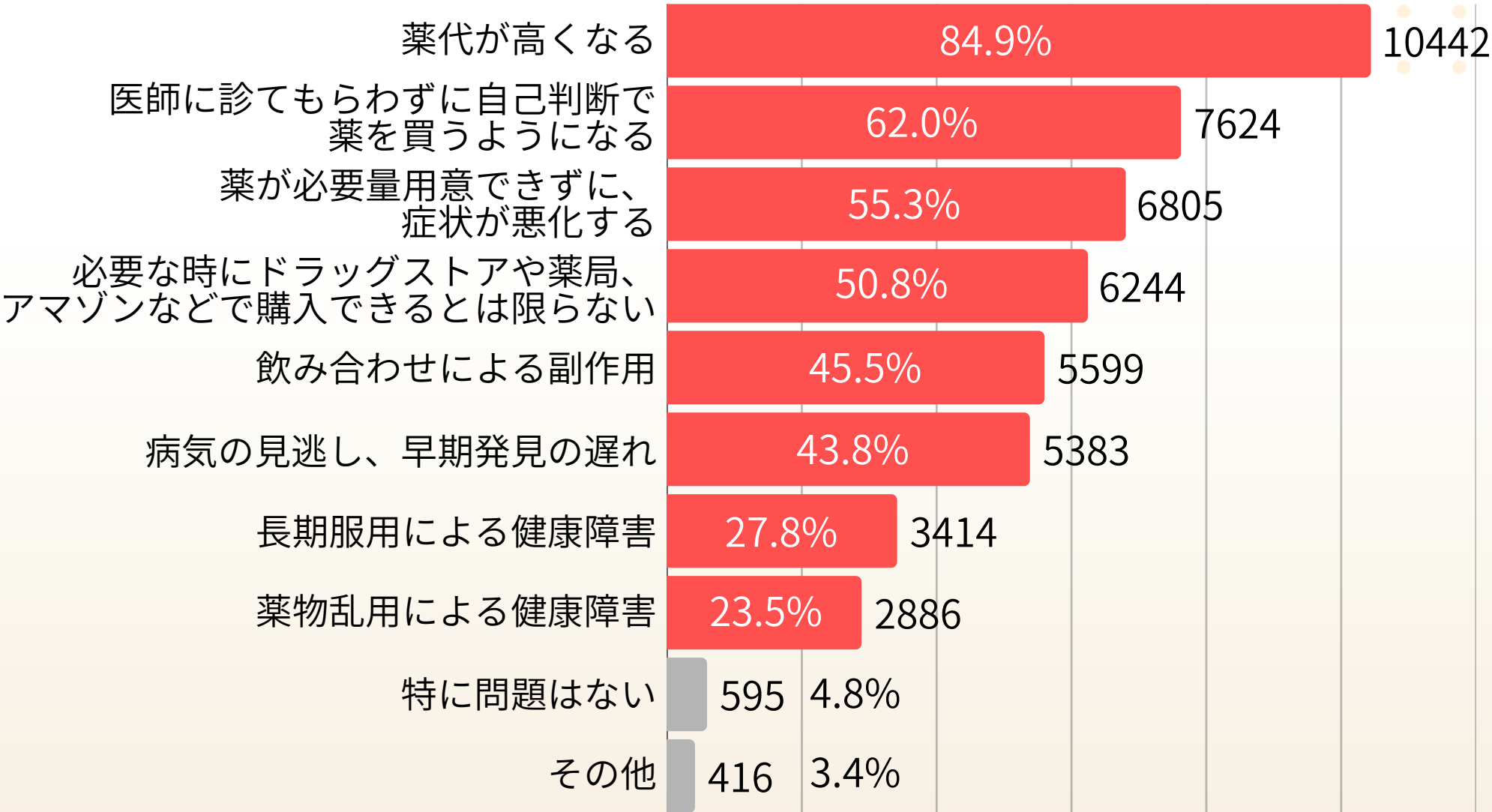


02 集計結果

OTC類似薬の保険外しで何が起こると思いますか？

- 医療用医薬品（OTC類似薬）が保険から外れた場合の懸念として、**8割が「薬代が高くなる」と回答した**
- 6割は自己判断による購入を懸念。半数超が、症状悪化や薬へのアクセスが滞ることに不安を抱えていた**
- 副作用や病気の見逃し、早期発見の遅れが4割いた

懸念されること（複数回答可）
n=12,301



02 集計結果

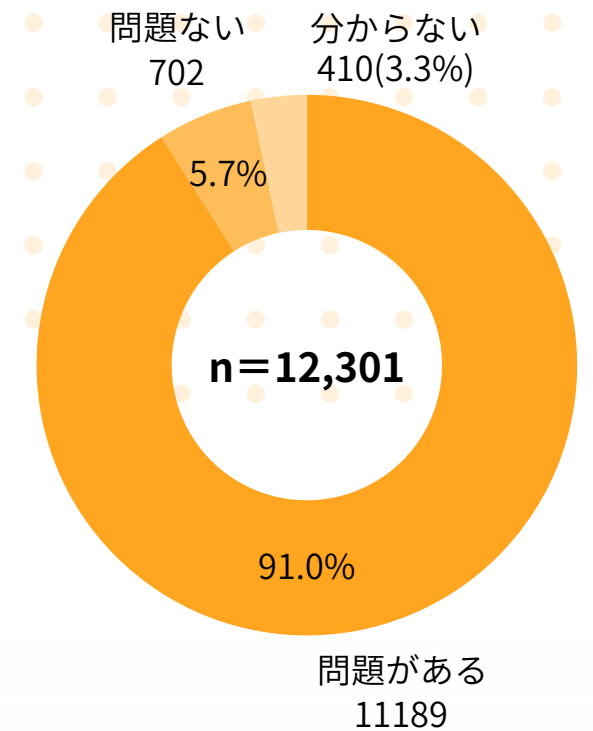
子ども医療費や難病医療費の助成制度が使えなくなることについてどう思いますか？

- 自治体の子ども医療費助成制度や国の難病、障害などに対する支援制度があるが、医療用医薬品（OTC類似薬）が保険給付されなくなった場合、薬代は制度から外れ別途の費用負担が発生する
- これについて、「**問題がある**」との回答が**9割超**に上った

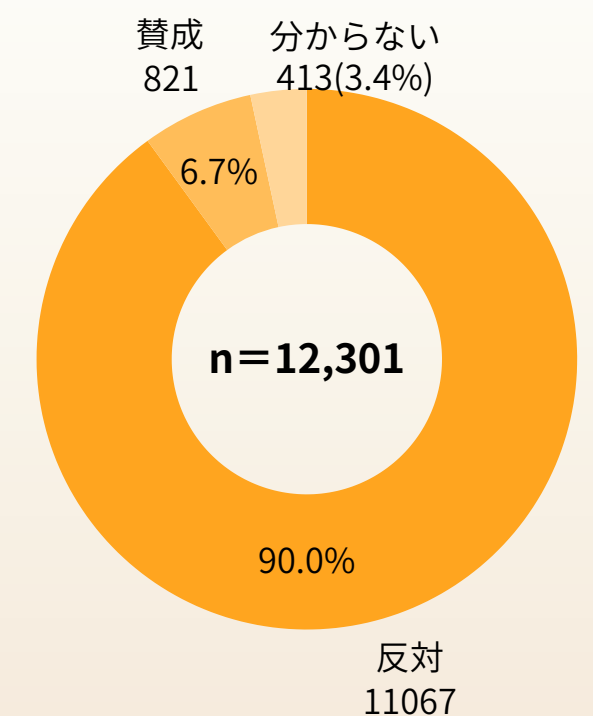
OTC類似薬の保険外しについて

- 回答者のうち、**約90%が医療用医薬品（OTC類似薬）の保険外しに「反対」**を回答した。「賛成」は6.7%だった

公費負担医療への影響



保険外しの是非



03 自由記載欄の特徴

OTC類似薬を使う患者の特徴

1. 頭痛・腹痛、痛み・痒み、咳・痰、便秘はじめ各種症状を抱える患者は、アレルギーなど慢性疾患、精神疾患や生活習慣病、月経困難症、歯科治療、さらにコロナり患・後遺症など**様々な疾患・機能障害に関わって、OTC類似薬を使用**している。
2. **がん、難病など重篤疾患の患者が**、手術、化学療法や放射線療法など治療の副作用への対処、治療の後遺症・合併症への予防・対処など**治療の一環として広く、日常的に使用**している。**難病など根治療法がない疾病では、事実上、OTC類似薬が対症療法として主たる治療**となっている。
3. ALSはじめ寝たきりの在宅患者もOTC類似薬を利用している。家族が介護で就労に困難を抱え、生活が困窮する中、さらなる負担増の懸念が患者・家族にストレスを及ぼしている。

03 自由記載欄の特徴

OTC類似薬を使う患者の特徴

4. 1～3の疾患を**併発・合併している患者、身内・家族の多くがアレルギーなどで複数の薬を使用しているケース**が見られる。生活に余裕があるとは言えない子育て世代や年金生活者、とりわけシングルマザーや障害者などでは生活がかなり困窮しているとともに、**医療費負担でノイローゼに近い状況も見られる**。「就労・育児や同居者への介護に差し支える」「自身の治療（投薬）を間引く」「第二子をあきらめる」などの声が見られる。
5. 医師の指導・管理の下での投薬ではなく、市販薬の利用（自己判断での使用）を求められることに対して、**飲み合わせ・副作用への不安**を訴える声が見られる。また、**混合調剤での処方やアレルギーの関係**により、市販薬では対応できないとの声も聞かれる。

OTC類似薬を保険から外した場合、危惧される事態

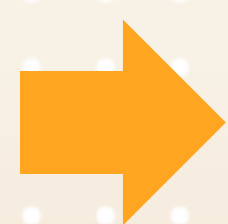
1. 患者はOTC類似薬を使うことで、就労、外出、家事・育児など生活を維持している。薬が保険から外される（広くは負担増）と疾患状態・生活状況が著しく悪化する。
2. 在宅患者がいる家庭、家族の複数で使用している場合、障害や治療で就労（収入）が制限される患者にとっては、生活の崩壊にもつながりかねない。在宅患者では生命の危機にも直結しかねない。
3. 難病、悪性腫瘍など重篤疾患の患者にとっては、治療自体（合併症の管理・予防など。化学療法の工程にも影響）が成り立たなくなる。
（高額な医療費を必要とする患者に痛みを強いる→「大きなリスクに備え、小さなリスクは自己責任」という議論は誤り）

OTC類似薬を保険から外した場合、危惧される事態

4. 患者は医師の診断の下で投薬（治療）を受けている。保険外し（市販薬購入）によって、飲み合わせの事故、副作用発見の遅れや有害事象（腎機能低下など）が増えることが懸念される。市販薬では薬の混合はできず、必要な薬が手に入らなくなる患者も出てくる。
5. 生活困難が増す中、保険外しなど負担増は、受診の中断・抑制を招く。患者の自己判断による市販薬使用を促し、疾患の早期発見・早期治療にも支障をきたすことになる。
6. 軽い症状のように見えても、感染症や重篤な疾患が隠れているケースもある。自覚症状があれば医療機関を受診し、検査・診断結果を踏まえて、適切な治療(処置・投薬、経過観察、精密検査など)を受けることが重要である。

OTC類似薬を保険から外した場合、危惧される事態

7. 受診した結果、軽い疾患（→一時的なOTC類似薬の処方）で済めば、それにこしたことはない。感染症（例えば、コロナ、インフル、アデノなど）は診断しなければわからず、自己判断による市販薬の利用はかえって周囲に感染を広げる結果となる。保険外しなど負担増は、患者を受診から遠ざけることで、重症化や感染拡大を増やす事態にもつながる。
8. 保険外しによって、捻出される財源は医療費のわずか0.3%。**保険料では、最大で1カ月100円の軽減（上昇の抑制）**にすぎない。
（保険外し候補と考えられる28有効成分リスト。外来医療費で年1543億円）



薬の保険外し（負担増）は、**子育て世帯、現役世代（20～60代）、重篤な患者に対して、多大な負担増を強いるものである。**

05 寄せられた声（慢性疾患関連）

※ より詳細な事例は別途配布資料を参照ください

年代	抱える疾患	具体的な事例
30代	親：アトピー 子：アトピー、喘息	保険を外されたら、自分と子どものアトピー性皮膚炎の症状を抑える自信がありません。また子どもは喘息持ちでクループを発症しやすく、救急搬送も多く経験しています。咳止めのムコダインはよく処方され、効き目も確かです。他にうつ症状なども出る持病もあり、 金銭的に楽ではなく、安定した生活のために今後も保険適用で使いたいです 。 自分に関して、アトピー性皮膚炎の症状緩和のためのリンデロンを断続的に一年中。特に季節の変わり目、花粉症やアレルギー鼻炎の際、手肌だけでなく鼻腔内の荒れた傷にも使います。 鼻腔内が荒れると呼吸も辛く、生活が辛いです。効き目はよく、とても楽になります 。子どもは前述の咳止めとして、やはり季節の変わり目の咳、喉風邪などでムコダインを処方されることが多いです。
30代	リウマチ ヘルペス	市販薬で対応できる範囲が限られてしまうので、毎月の薬代が倍以上かかって家計に負担がかかる。 家族も症状は違うがOTC類似薬を処方されているため、もし保険外しをされたらもう病院行かない！となってしまう、意固地になって市販薬で済ませようとするかも知れません。市販薬でも高いのに。 ヘルニアによる腰痛、変形関節症による疼痛でトラムセット錠とロキソニンテープ(トラムセットは1日3回、テープは1日1回)、慢性副鼻腔炎による鼻汁過多と後鼻漏でタリオン錠(こちらは1日2回)。どれも2ヶ月に1度処方されています。特にタリオン錠がないと、夜中に鼻詰まりが酷くなり不眠気味になるのと、朝喉に不快感があり吐き気を催すことがあります。
30代	アレルギー 生理痛	薬が高額になり、生活が出来なくなる。生活の為に薬を止めてしまうと働く事、生きる事が難しくなる。 白樺由来のアレルギーとアルコールアレルギーでフェキソフェナジン、ペポスタチンを毎日1日1錠2回飲んでるのと、月経困難症でカロナール生理時に1日6錠飲んでます。アレルギー薬は飲まない食事食べられないものだらけになり、白樺の花粉時期には息ができません。月経困難症はピルが体質的に飲めないの、カロナールで痛みを誤魔化しないと働く事が出来ないの必須です。

05 寄せられた声（悪性腫瘍関連）

※ より詳細な事例は別途配布資料を参照ください

年代	抱える疾患	具体的な事例
30代	乳がん	<p>乳がん治療のため、痛み止めの服用が必須です。治療代も高額になる中、保険適用でない薬で治療を続けると子を育てることができず、私も死にます。まだ30代、働きながら子育てと治療を続けております。生きさせてください。</p> <p>乳がんの治療でリンパ切除し、腕や患部に痛みがあるため、また、ホルモン治療による副作用への対処のためロキソニン使用。放射線治療の肌焼けにヒルドイド。</p>
30代	急性リンパ性白血病 GVHD（骨髄移植後に起こる合併症）	<p>高額療養費を払うだけでもギリギリの状態です。子育て中のため、不安が募ります。急性リンパ性白血病の分子標的薬の他、GVHDがあるため、保湿剤やステロイド薬を内服と塗り薬で使っております。保湿剤もステロイドの塗り薬も実費になりますと、月の負担が一万円以上上がる見込みです。</p>
50代	肺がん	<p>肺がん患者です。抗がん剤に加えて、咳止め、痰きりの薬を処方されています。これから先、死ぬまで必要な薬です。咳止めなどが保険外になるなんて恐怖でしかありません。抗がん剤のほかに、メジコン、ムコダインのジェネリック医薬品を処方されています。また抗がん剤の影響でかなり重い皮疹が出て、その症状の緩和のために保湿剤（ヘパリン類似物質）や塗り薬（ベタメタゾン）も処方されています。これらが全て保険外になると非常に困ります。ただでさえ、抗がん剤が高額なので。</p>

05 寄せられた声（悪性腫瘍関連）

※ より詳細な事例は別途配布資料を参照ください

年代	抱える疾患	具体的な事例
40代	子宮頸がん	<p>医師が必要な処方にも関わらず、処方できないという事態が発生しかねないのかなあと心配です。ただいま子宮頸がん治療中の身なので、薬服用による胃痛や乾燥による肌荒れなどに対処するお薬をもらっているのですが、それが保険で使用できないとなると、せっかく使用できている今の薬を諦めて、他の薬を選択せざるを得なくなります。子宮頸がんの放射線同時化学療法後、治療抵抗性の肺転移があり、抗がん剤治療し、現在は免疫チェックポイント阻害薬による維持療法中です。</p> <p>これまでの治療による副作用や後遺症の対症療法として、たくさんの薬を服用しています。</p> <p>①ヒルドイドクリーム：免疫チェックポイント阻害薬の副作用による乾燥肌の治療</p> <p>②ロキソニン：白血球低下による感染症にかかる場合があり、その際に発熱や痛みを取るため</p> <p>③ガスター：副作用や後遺症を抑えるためにたくさんの薬を飲んで服用しているので、胃痛が発生しやすく、胃痛軽減のために服用</p> <p>④マグミット：放射線治療の後遺症で小腸に腹膜炎が発生し手術、その後、腸の動きが悪いために便秘が思うようにいかないことがあり、マグミットを服用して排便している。</p> <p>そのほかにもたくさんの薬を服用しています。保険適用できないとなると、薬代の負担が増えるだけでなく、新たな薬を使うことで未知の副作用を許容しないといけないリスクがあり、できればこのまま使用できるように保険適用してもらいたいです。</p>

05 寄せられた声（難病関連）

※ より詳細な事例は別途配布資料を参照ください

年代	抱える疾患	具体的な事例
50代	潰瘍性大腸炎 統合失調症 骨粗鬆症	実際に自分も統合失調症や潰瘍性大腸炎も含めて複数の病気を抱えており年2~30万薬代込みでかかっている。これ以上負担が増えると生活できない。 骨粗鬆症からの圧迫骨折の後遺症で腰痛や背中が痛む。また潰瘍性大腸炎の合併症の一つの関節炎を起こしている。痛み止めとしてセレコキシブやカロナールを使用。骨粗鬆症の注射プラリア及びアルファカルシドール錠を使用。潰瘍性大腸炎の治療でリアルダ（ジェネリックがないので高い）を使用。アレルギーが酷くなり痒疹（ようしん）を発病中で週一回紫外線治療とヘパリン・デルモベート混合軟膏、ヘパリン・ロコイド混合軟膏（顔、首用）、ブレドニゾロン軟膏(陰部の痒み)、レスタミン、ルパフィン錠、脂漏性皮膚炎でのトプシムローション・カルプロニウム混合液、統合失調症の薬としてオランザピン、スルピリド。精神病と薬の副作用で腸にガスが溜まっているのでジメチコン錠、ドンペリドン錠、漢方で大建中湯、六君子湯、防風通聖散など。
40代	潰瘍性大腸炎 原発性硬化性胆管炎	難病を2つ持っており、今回挙がっている薬をいくつか処方されています。保険が外されると、自費での購入になり、大変な負担となります。原発性硬化性胆管炎、潰瘍性大腸炎。痛み止めにカロナール、ロキソニン、タケキャブを処方されています。日常的に使わないと生活に支障が出ます。

05 寄せられた声（難病関連）

※ より詳細な事例は別途配布資料を参照ください

年代	抱える疾患	具体的な事例
40代	再生不良性貧血	特定疾患の再生不良性貧血を中学2年の頃に、別の病気の精密検査で発覚。鉄剤を飲むと、ほぼ100%しつこい便秘になり、市販の薬だと効き目強すぎて下痢になる。穏やかな効き目の、酸化マグネシウム頼り。季節の変わり目は鼻づまりか15～30分置きに鼻をかむので、噴霧か飲み薬がないと寝つきも悪くなる。"再生不良性貧血／軽度の鼻炎 酸化マグネシウム(週3か4に3～5錠)／噴霧タイプ(春か秋1日2回)。
30代	アトピー性脊髄炎	もし保険適用外になり難病医療費から外されると毎月1万円で収まっていた医療費が(私が知る限りのOTC類似薬を市販で買った場合、7～8万円程度まで跳ね上がり生活を圧迫します。 アトピー性脊髄炎という特殊な病気を患っています。その症状を安定させるためにアトピー性皮膚炎や他のアレルギー症状も抑える必要があります。免疫抑制剤やプレドニンがメインではありますが、アレルギーを抑えるためにOTC類似薬に含まれるものを多数服用しています。
50代	ALS	私はALSで気管切開をし人工呼吸器をつけています。処方薬は薬局で粉砕し一包化されて胃瘻から注入しています。 一部の薬剤を自分で購入し粉砕するなんてできませんし家族負担も増えます。 人工呼吸器をつけているので去痰剤は不可欠です。

05 寄せられた声（その他）

※ より詳細な事例は別途配布資料を参照ください

年代	抱える疾患	具体的な事例
40代	精神疾患 花粉症 蕁麻疹	向精神薬は自立支援で1割負担になってます。重度かつ継続です。その副作用を軽減するために酸化マグネシウムを3割負担で処方されていますが、OTCとなると負担が桁違いです。酸化マグネシウムは腎臓に負担をかけるのでOTCを自己判断で漫然と飲み続けるのも心配です。アレルギー体質なので抗アレルギー薬も必需品で、出費の増加が不安です。
40代	コロナ後遺症 ヘルニア	定期的に常時服用している者としては、保険外しにより通院で処方されなくなったり、現在ただでさえジェネリックではない物を望むと高額になるのに、さらに高額になるのだとしたら、絶望でしかありません。コロナ後遺症による症状でフルナーゼ点鼻薬、タリオン錠、メジコン錠を処方されています。また、コロナ後遺症の咳により元々の喘息が悪化し、逆流性食道炎にもなっていて、ガスターを処方されています。加えて、元々のヘルニアによる痛み止めとして、カロナールも時々服用しています。副作用で使用できない薬があるため、代わりが効かないものもあります。
50代	家族が重度障害の在宅患者	重度障害寝たきりの家族がおり、保険から外れると、高額療養費の限度額や重度障害医療からも外れて自己負担額が莫大になる(3割が10割になる訳ではなく0が10割負担になる)。胃ろう孔や唇や股ずれまわりほか各種圧迫や引っ掛けや等による皮膚トラブルと褥瘡等。プロペト月200g、ヘパリンローション月100g、アズノール月40g、リンデロン月10g、オロパタジン点眼薬月10ml、ヒアルロン酸点眼薬月10ml、口内炎薬月15g、レシカルボン座薬月10個、浣腸月1本、アセトアミノフェン月200mg、ピコスルファート内服月10ml、マグミット毎日1500mg、大建中湯毎日7.5g、ミヤBM毎日3g。ほか家族で湿布月100枚、頭痛薬月10錠。家族介護で外に働きに行けずもうすぐ定年退職後の就労も困難で年金は僅かで生活の見通しが立たない中更に自己負担額が爆増の心配で心労から具合が悪くなっています。
50代	1型糖尿病 B型肝炎	糖尿病治療に伴うカンジタ菌の殺菌にラミシール、アレルギー反応にクラリチンが処方されており、悪化が懸念される。 1型糖尿病 インスリン(ヒューマログ、ランタス)、フォシーガ錠10mg、朝1錠、ルパフィン 夜1錠 B型肝炎 ベムリディ25mg 朝1錠、ウルソ50ミリ…毎食後1錠